

# 営業の概況

## 鉄鋼関連事業

鉄鋼需要は、国内は建設向けが低調であったものの、自動車等製造業向けが旺盛な外需および民間設備投資の改善を背景に堅調に推移しました。また、輸出もアジアを中心に高水準で推移したことから、全国粗鋼生産は前年同期を上回りました。一方、鋼材市況は、内外での需給が逼迫していることから着実に改善が進んでおります。

溶接材料については、国内は建築分野での低迷を受け、需要環境は総じて厳しい状況となりましたが、輸出はアジア向けを中心に堅調に推移しました。

このような状況の中、総力をあげた営業活動や発電所(1号機)の安定操業に取り組んだ結果、当事業の売上高は前年同期比5%増の2,651億円となりました。

なお、電力卸供給事業については、発電所2号機が来年4月の営業運転開始に向けて、本年7月より試運転を行っております。同2号機の稼働後は、1号機と合わせ140万キロワット体制が整う予定です。

## アルミ・銅関連事業

アルミ圧延品の販売量は、缶材は冷夏や発泡酒増税に伴う需要の減少が見られたものの、アルミボトル缶の採用拡大による増加により前年同期比微増となりました。また、自動車向け板材、半導体・液晶製造装置向けアルミ厚板、ハードディスク用基板等の増加や、押出材が自動車向けを中心に堅調に推移したことから、全体では前年同期を上回りました。

一方、銅圧延品の販売量は、電子材料用板条は前年同期並みで推移したものの、空調用銅管が国内向けの増加により前年同期を上回ったことから、全体では前年同期を上回りました。

この結果、当事業の製品売上高は増加したものの、アルミ地金関連事業撤退の影響により、当事業全体の売上高は前年同期比4%減の1,228億円となりました。

## 機械関連事業

国内受注は、都市ごみ処理設備需要が低迷したものの、民間設備投資の改善による回転機やタイヤ機械、環境対策関連設備の受注拡大により、前年同期比22%増の634億円となりました。海外向けは、回転機や中国向けタイヤ機械が堅調に推移したことから、前年同期比6%増の158億円となりました。

この結果、当事業全体の受注高は前年同期比18%増の792億円となり、当上半期末の受注残高は1,476億円となりました。

一方、当事業の売上高は、都市ごみ処理設備の受注減の影響により、前年同期比15%減の834億円となりました。

## 建設機械関連事業

国内の建設機械市場は、買い替え需要回復の動きに伴い、ようやく底打ち感が見えてきました。海外需要は、急速にインフラ整備を推進する中国での需要拡大および堅調な東南アジアに加え、北米も緩やかな回復基調にあります。

このような状況の中、好調な中国に加えて国内販売も大幅に拡大したことから、当事業の売上高は前年同期比27%増の932億円となりました。

## 不動産関連事業

不動産業界においては、住宅ローン減税制度適用の駆け込み需要の発生等により、新設住宅着工戸数は前年同期比微増と4年ぶりに前年度を上回りました。

このような状況の中、当社は、更に品質の高い商品の提供と顧客サービスの向上に努めながら、積極的な営業活動を展開しました。この結果、当事業の売上高は前年同期比31%増の206億円となりました。